

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
[1] 学習指導の充実向上と進路指導の充実	① 指導内容の精選や指導方法の工夫改善により、基礎基本の確実な定着を図る。 ② よく分かる授業を行うことで、学習意欲を高め、確かな学力を育成する。 ③ 学校行事等を精選し、授業時数の確保に努める。 ④ 自らの課題を発見する力をつけ、主体的に取り組み、自ら考え行動し、解決できる資質や能力を育成する。 ⑤ 進路相談を充実し、個々の生徒に応じた支援をするとともに、集団の一員としての社会適応力や職業観を培い、生徒一人一人の進路実現を図る。 ⑥ 学校図書館が生徒および教職員の図書の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与し、生徒の健全な教養を育成する。	① 評価指標 ① 教職員は様々な工夫をして授業に取り組んでいるかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上とする。	評価指標による達成度 ・教職員は様々な工夫をして授業に取り組んでいるかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%であった。	総合評価 (評定) B	○4月のクラスター発生で授業等大変であったと思われる。今後はwithコロナの対応が必要と思われる。 ○評価は全体的にBが多い。もっとAが多くてもよいのではないかと。 ○学習指導の充実、特によくわかる授業が大切である。 ○共通テストの難化に対する対応が必要である。 ○全般的に先生方の努力は伝わっており、社会的な評価も良好であるが課題もある。コロナの感染状況が常態となったとき、どのように教育を進めるか課題を明確にし、こういう方向で教育をするのだと地域に発信する必要がある。 ○今年はコロナに対する取り組みや評価があってもよかつたのではないかと。なかつたのは少し残念であった。 ○休校時の学習への対応が十分になされていない。保護者の不満が伝わってきている。楽しい学校として実感できるようにしてほしい。 ○オンライン授業をもっと積極的にする必要がある。双方向にできるようなものとなるよう研究が必要である。 ○商業科の就職者が減ってきている。進路希望が変わってきているのか。進学希望が増えているとの	○GIGAスクールの生徒用タブレットが使いこなせて授業ができるようにしていきたい。さらに、中高一貫教育や高大接続に関する校内外の研修の機会（オンライン含む）を増やし奨励していきたい。 ○感染防止対策を取りながら、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう工夫された授業を展開することで、さらなる授業力の向上及び授業満足度の向上を図りたい。 ○共通テストの難化により進路指導も例年と比べより慎重に進めた。来年度の共通テストを含め入試全般について教科主任等と連携を取りながら対策を考えていきたい。
		② 授業に対して満足しているかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が80%以上とする。	・授業に対して満足しているかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が79%であった。	(所見) B ・教職員は様々な工夫をして授業に取り組んでいるかが昨年度より6%低くなったのは残念であった。		
		③ 授業時数の確保率を83%以上にする。	・年度末において、商業科、普通科とも83%以上になる見込みである。	B ・授業に対する満足度は約19%が「満足」、約60%が「おおよそ満足」であった。昨年度はそれぞれ28%、58%であったので、「満足」の割合が9%低くなってしまったのが残念であった。		
		④ 計画的な学習ができているか、意欲を持って授業に取り組んでいるかの質問に対し「おおよそ当てはまる」以上が共に80%以上とする。	・計画的な学習は57%、意欲を持って授業に取り組んでいるが86%であった。	B ・授業には意欲的に取り組んでいるが、約4割の生徒が計画的な学習ができていない。昨年度とほぼ同様であった。		
		⑤-1 進路検討会を年間3回以上行う。	・進路検討会を年間3回行い、生徒個々の進路について検討を行うことができた。	B ・図書委員が活発に活動に参加し、校外の行事にも積極的に参加した。		
		⑤-2 個別面談を各学期1回以上実施する。	・三者面談を含め、各学期1～2回実施した。	B ・国公立大学への合格者は目標の100名には達しなかったが、普通科の合格者では50%を超えることができた。また、商業科は昨年度に続き国公立大学合格者を輩出することができた。		
		⑤-3 国公立大学への合格者100名を目指す。	・総合型選抜、学校推薦型選抜（共通テストを課す・課さない）を含め、普通科80、商業科4の計84であった。	B ・校外模試成績の分		
⑤-4 商業科において、全商1級3種目以上取得者40%以上、就職内定率100%とする。	・全商1級3種目以上取得者36%、就職内定率90%であった。	B ・ほぼ月1回のペースで企画展を開催し、生徒の参加も活発であった。				
⑥ 図書室利用活性化の為に、学期に2回、企画展などの活動を行う。	・図書室利用活性化の為に、学期に2回、企画展などの活動を行う。	A				

活動計画	活動計画の実施状況
①-1 「学力向上委員会」を年間2回以上実施し、学力向上のための方策を検討する。	・「学力向上委員会」を1学期と3学期に各1回実施した。
①-2 相互授業参観や授業研究会、職員研修等を年間2回以上実施して授業力の向上を図る。	・相互授業参観は1学期と2学期に実施したが、授業研究会は新型コロナの影響もあり、できなかつた。職員研修会は、1学期に1回「情報セキュリティ」研修時に Metamoji を使用した。他はできなかつた。
①-3 電子黒板、生徒用タブレット等 ICT の活用による授業、すなわち GIGA スクール構想を推進する。また、そのための授業参観や研修の機会を設ける。	・研究授業の際にタブレットを使用する授業が多くなされ、参観者も多かつた。英語科や数学科での活用が進んだ。研修は十分にできなかつた。
② 授業評価アンケートを行い、その結果を授業改善につなげる。	・授業評価アンケートは1学期末に1回実施した。集計結果の返却は9月にできたので昨年度の2学期末返却より改善した。
③ 学校行事の精選、各学期末考査後の日程、授業実施曜日のバランス等、年間を通じての入念な計画を立て、授業時数確保に努める。	・行事については規模の縮小や中止を行った。授業実施曜日についてカウントを行い、振り替えたりしながらバランス良く授業時数の確保をした。
①, ②, ④ 学校評価アンケートを行い、目標が達成できたか評価する。	・2学期末に学校評価アンケートを行い、目標が達成できたか評価した。アンケートは Classi というソフトを利用してパソコン等で実施した。アンケート回収率が低くなるのが課題である。
④ 放課後等に自習を行える環境を整え、主体的な学習活動ができるようにする。	・特別教室など放課後空き教室での自習は新型コロナの影響で昨年度ほど多くなかつた。
⑤-1 進路指導検討会で模試等を活用し、生徒の状況を分析してその後の進路指導に役立てる。	・校外模試の度数分布表を中高全学年で回覧し、教科指導に役立てた。
⑤-2 担任は面談をとおして生徒が適切な進路選択をできるように指導する。	・模試データや課題テストから生徒個々の学力の特徴を分析しながら、個に応じた進路指導を行った。

析や、校内実施の生活実態調査を通して生徒の学習状態を数値で表し、全職員で共有することで、生徒の実態を把握し、面談等を通して生徒の進路指導に役立てることができた。

ことだが、実態に合わせて対応してほしい。

	<p>⑤-3 担任と進路課が連携し、適切な進路指導を行う。</p> <p>⑤-4 資格試験の受験を勧める。また、インターンシップ等体験的な活動を行う。</p> <p>⑥-1 図書、視聴覚教育の資料、その他学校教育に必要な資料を収集、整理する。</p>	<p>・一人一人に対応したきめ細かな進路指導が行われていると答えた生徒は、72%で昨年と同様であった。</p> <p>・資格試験は部活動公式試合で受験できない者以外は100%受験した。インターンシップはコロナ禍の影響で中止となった。</p> <p>・本年度蔵書を約600冊追加した。SDGs学習の資料充実が図れた。</p>			
--	---	---	--	--	--

[2] 中高一貫教育の 充実	① 中高教職員のより緊密な連携のもとに、指導方法の工夫改善や教科横断的な学習の充実を図り、6年間の計画的・継続的な指導を行うなか、生徒の個性や能力を伸長させる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>○中高一貫教育を全面的に出しているが、特色がわかりにくい。メリットを活かし特色を出すことが大切である。先生方の創意工夫を出してほしい。</p> <p>○中高で行っているSDGs教育の一環としてボランティア活動を取り入れてはどうか。</p> <p>○中高一貫でRRC等を創立当初から行っているが、何か新しい取り組みが必要ではないか。</p> <p>○英語と数学は中高教員の授業交流があるが、他教科も交流するなど新しい取り組みが必要と思われる。</p>
		<p>①-1 中高一貫教育研究委員会を年間2回以上実施する。</p> <p>①-2 中高教職員による相互授業参観や中高合同研修会を年2回以上実施する。</p> <p>①-3 複数の科目において中高教職員による授業交流を実施する。</p> <p>①-4 中高合同教科会を各学期1回以上行う。</p> <p>①-5 ESD（持続可能な開発のための教育）活動について連携し、合同の講演会や発表を年1回以上行う。</p>	<p>・中高一貫教育研究委員会を1,3学期に各1回実施した。</p> <p>・中高教職員による相互授業参観を1,2学期に各1回、中高合同研修会（情報セキュリティ研修会）を1回実施した。研究授業の授業参観も複数回実施した。</p> <p>・数学と英語の科目において例年通り中高教職員による授業交流を実施した。</p> <p>・中高合同教科会を各学期1回ずつ実施した。</p> <p>・中高教職員による相互授業参観を1,2学期に各1回、中高合同研修会（情報セキュリティ研修会）を1回実施した。</p>	<p>(評定) B</p> <p>(所見) ・今年度も新型コロナウイルス感染防止と授業時数確保が最優先であったので、さまざまな学校行事や講演会、職員研修会は精選して実施した。Zoom等を使用してのオンラインでの行事が普通になってきた。</p>	
		活動計画	活動計画の実施状況		<p>○今年度も中高が連携したユネスコスクールとしての取組が十分にできなかった。徳島県教育大綱に示されたようにあらゆる教育活動をSDGsに関連づけて実施できるように行事は精選した上で効果的な取組を強化していきたい。</p> <p>○中高一貫教育のメリットを実感できるよう、特に進路の動機付けとなる機会を増やせるように、高校と中学校との生徒間及び教員間の連携を図っていききたい。</p> <p>○行事が過多にならないよう精選を進めつつ、中高一貫教育研究委員会における協議を活性化させ、具体案を実行していきたい。</p> <p>○中学校及び高校の志願者増につながるよう広報活動を強化する必要がある。</p>
		①-1 年2回の中高一貫教育研究委員会までに有効で実施可能な案を検討し、委員会では具体的な検討ができるようにする。また、内進生の6年間成績の推移がわかるようにし、さらなる向上対策を検討す	・中高一貫教育研究委員会を1,3学期に各1回実施した。内進生の6年間成績の推移はベネッセの模試データからわかるのとことであった。教員の負担を大きく増やさないで中高連携や成績		

		る。	向上を図る新たな方策があまりないのが現状である。		
		①-2 中高相互の授業見学，研究授業及び研究協議を年2回以上行う。	・中高合同教科会が1学期しかできなかった。各教科で実施可能な案について検討する時間十分に取れなかった。		
		①-3 数学と英語を中心に中学校の授業の一部に高校教員が入ること，併設型中高一貫教育のメリットを活かした指導法や指導体制を検討する。	・例年通り，数学と英語は中学校の授業の一部に高校教員が入った授業を行った。それ以外に，併設型中高一貫教育のメリットを活かした新たな指導法や指導体制を始めることはできなかった。		
		①-4 各学期初めの職員会議後に中高合同教科会を行う。	・中高合同教科会を各学期1回ずつ実施した。主に，来年度から必要な「観点別評価」について協議した。		
		①-5 ESD活動（ユネスコスクールの取り組み）を計画的に推進する。	・公開中止となったが，文化祭の際に「ESD展」として現3年生の課題研究ポスター展示を行った。「服のチカラプロジェクト」で子供服を集める活動は，今年度も大幅に縮小して行った。JICAへの生徒の作文応募は個人での応募にとどまった。国際交流活動もできなかった。		

[3] 人権尊重の意識・態度を育む「心の教育」の推進	①「徳島県人権教育推進方針」に基づき，豊かな人間性を身につけさせ，さまざまな人権問題の解決のため，主体的に取り組む能力・実践力の育成に努める。 ②学校・家庭・地域社会との連携を深める。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	○感染者への対応などコロナ禍に対応した人権教育の充実が必要である。	○継続的な啓発・学習が重要である。法の制定やコロナ禍による社会の動きも考慮しながら，生徒・保護者・教職員が意識を高められるよう，年間行事の時期，内容について課内で検討し，充実したものにできるように努めたい。 ○月1回の富東人権の日で，人権問題について考える機会を呼びかけたい。また，「富東人権新聞」やアピール放送の内容についても，担当教員と生徒で内容を吟味していきたい。 ○身近な問題として考えられる生徒が増えるた
		①-1 人権 HR 学習を年6回（3年生は5回）実施する。	・人権 HR 学習を年6回（3年生は5回）実施することができた。	B	(評定) B	
		①-2 「富東人権新聞」を年5回発行，アピール放送を年2回実施する。	・「富東人権新聞」を年5回発行，アピール放送を年2回実施することができた。	B	(所見)	
		①-3 生徒対象の人権教育関連行事を年1回以上実施する。	・1・2年生は各学年ごとに企画し，2学期に1回ずつ講師を招いての講演を実施することができた。事後の作文やアンケートで有意義であったという意見が多数見られた。	B	・人権 HR 活動は，各学年で指導案作成，検討会を学期ごとに行い，共通理解を図った上で実施することができた。内容に関しても，生徒の実態を踏まえ，話し合うことができた。	
		①-4 生徒対象アンケートで「人権問題について意識し，差別をなくすために行動したい」	・「行動したい」という積極的な意見は21%，「学習することで意識		・コロナウイルス感染による休校後の学校再開時には，「感染症と向き合	

とする回答合計が 80%以上になることをめざす。	をするようになった」という前向きな意見が 76%であった。入学当初に比べ、積極的な意見が 3%増えた。	B
②-1 人権問題研修会を教員対象年 3 回以上、PTA 対象年 1 回以上実施する。	・教職員対象に 3 回、講演会等の研修会を実施することができた。PTA 対象の講演会は、公開授業の中止に伴い実施することができなかった。	B
②-2 保護者・教職員対象アンケートで「人権を尊重するための様々な取組が行われてる」が 80%以上をめざす。	・「おおよそ当てはまる」以上の回答が教職員 97%、保護者 87%、生徒 95%であった。	A
活動計画		
①-1 人権教育ホームルーム活動を充実させ、展開等の工夫をする。	・指導案を基に各学年で事前検討会を行い、共通理解を図って授業を実施することができた。コロナ禍での情報リテラシーについても考える時間を設定できた。	
①-2 月 1 回の「富東人権の日」に「富東人権新聞」やアピール放送を使って啓発する。	・人権教育推進委員が教員と話し合いながら執筆した人権新聞を発行したり、アピール放送をすることができた。	
①-3 講演会等の企画の他、ポスター・標語の作品展示を通して啓発する。	・富東祭での人権啓発ポスター展や富東人権週間での作品展示を実施することができた。	
①-4 卒業時にアンケートを実施し、入学時との意識の変化について考察する。	・実施したアンケートを基に教職員研修会を行い、今後の取り組みについて検討することができた。	
②-1 校内研修会を企画し、教職員の人権意識を高める。	・年度当初に新入生対象の意識調査の結果を考察したり、各学年ごとでの講演会への参加を呼びかけたりして人権意識の高揚を図ることができた。識字学級は今年度も開講されなかった。	
②-2 「富東人権新聞」を家庭に持ち帰り、保護者にも読んでもらい、人権意識の高揚を図る等の継続的な啓発を行う。	・毎回の人権新聞発行時に、各家庭で話し合う機会を持つことを担任を通じて呼びかけてもらった。	
②-2 講演会を企画し、保護者への参加を呼びかける。	・今年度は、感染防止の観点から、保護者の参加を呼び	

い、人権を尊重する社会や学校にするためにできることと」を動画や放送で呼びかけることができた。また、人権新聞の内容にも情勢を踏まえた内容を取り上げることができた。

- ・高校 3 年間の学習で、人権学習の意義を前向きにとらえる生徒が 98% を占めた。積極的に行動したいという生徒の割合が増えたことは、担任をはじめとする教職員の取り組みの成果があったと考える。
- ・教職員に対しては新しい分野の人権問題についても知識・理解を深められるような内容を検討したい。
- ・保護者には人権新聞を通じての啓発はできたが、例年行ってきた講演等を実施することができなかった。来年度も同じ状況が続くことが予想されるため、内容や実施方法を工夫する必要がある。

めには、教職員の人権感覚を高めていくことが必要である。各学年での人権 HR 打ち合わせや教職員研修の場を充実したものにするように努めたい。また、ホープサークル部の活動の充実をさらに図り、中学生との活動も広げていきたい。

<p>[4] 豊かな心を育む 生徒指導の推進</p>	<p>①教育の全領域において、あいさつ、マナー等の基本的生活習慣を身につけさせるよう努める。</p> <p>②いじめや体罰を防止し、速やかに対応する。</p> <p>③行動・学習面で教育的支援が必要な生徒を学校全体で支えていく体制を確立し、特別支援教育を推進する。</p> <p>④全教職員の共通理解を図り、家庭・地域・関係諸機関との連携に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1年間遅刻回数20回以上の生徒を0人にする。登校日の遅刻者0人の日の割合を20%以上とする。</p> <p>①-2身だしなみをきちんとできていると自己評価する生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>②いじめと体罰に関するアンケートを各学期1回実施する。</p> <p>③校内の支援体制について、生徒・保護者に年3回以上周知し、早期の対応につなげる。</p> <p>④教職員研修を年間1回以上実施する。</p> <p>活動計画</p> <p>①-1あらゆる場面や領域で共通理解を図り、望ましい生活習慣の育成に努める。多遅刻者には、保護者への連絡を密にする。</p> <p>①-2服装・頭髪・マナーについて集会やHRでの指導を通して自覚を高める。挨拶の励行や清掃活動への自主的な取組を促す。</p> <p>②いじめ問題について集会やHRでの指導を通して啓発を行う。</p> <p>③スクールカウンセリング等、生徒・保護者が相談しやすい環境づくりに取り組む。</p> <p>④外部講師による教職員研修を実施し、支援を必要とする</p>	<p>かけることはできなかった。</p> <p>評価指標による達成度</p> <p>・遅刻回数20回以上の生徒は3人、登校日の遅刻者0人の日の割合は13%であった。</p> <p>・自己評価が当てはまる生徒は、83%と目標には届かなかった。</p> <p>・いじめと体罰に関するアンケートを各学期1回実施した。</p> <p>・生徒、保護者に向けてスクールカウンセリングのお知らせや保健だよりを通して年3回の周知を行った。</p> <p>・生徒対象に実施した「スマホ安全教室」「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」等に教職員の積極的な参加を促し、教職員研修と兼ねて実施した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>・遅刻者には、その時々での指導を重ねた。遅刻回数が多い生徒については、家庭との連絡を密にとり協力をお願いしてきた。</p> <p>・登校時の昇降口指導や月1回のHRでの服装指導を実施した。学年集会では、各学年の教職員全員で共通指導を行った。</p> <p>・各学期の学年集会やHR活動の時間を通して啓発を行った。</p> <p>・教職員の勧めでスクールカウンセラーに繋ぐケースがほとんどであった。</p> <p>・感染症対策や行事の精選により教職員対象の研修の実</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の生徒の遅刻回数が極端に多く、数値目標を達成できなかった。 多くの生徒は基本的な生活習慣が身についており、身だしなみについてもおおむね良好であるが、数値目標には届かなかった。 いじめや体罰は重大な人権侵害だと捉え、今後もアンケート調査等を通して早期発見・対処を継続する。 新型コロナウイルス感染症の発生による臨時休校や学校行事の規模縮小・中止に伴う心理的な負担も大きかったが、相談件数については大きな変化はみられなかった。 	<p>○自転車事故防止のためにも、時間に余裕をもって登校することが大切である。指導の充実が必要である。</p>	<p>○遅刻をしないことや身だしなみを整えることは、当たり前のこととして自然にできるように声かけを続け、学校全体での取組としたい。</p> <p>○何事においても人間としてふさわしい言動が「自己選択」「自己決定」できる生徒を育てられるよう努めたい。その実現のために、担任を通して保護者との連携も図っていきたい。</p> <p>○校内の相談活動を身近なもの感じてもらえるように、文書だけでなくホームページや校内の掲示板等を活用した周知活動に取り組んでいきたい。</p>
------------------------------------	--	--	--	---	---	---

		生徒の共通理解を図る。	施が難しい状況であったので、学校行事への参加を研修の一環として位置づけた。		
[5] 特別活動の充実	<p>①部活動や生徒会活動等において、生徒の自主的活動の育成を図るとともに、活力あふれる学校づくりに努める。</p> <p>②ボランティア活動をとおして、人間としてのよりよい生き方・在り方を追求する。</p> <p>③教員と生徒、生徒相互の温かい人間関係を育て、生き生きとした人間性や自主性・社会性等の伸長を図る。</p>	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		①-1 生徒会新聞を年間4回以上発行し、部活動・生徒会・各種委員会の活動や学校行事をPRする。	・学校行事・各種大会の多くが中止・規模縮小となったのに加え、学習時間の確保の観点から生徒会活動も控え、新聞発行からzoomでの全国・四国大会壮行会等に切り替えた。	(評定) B	○コロナ禍で今後常態化も予想される中、部活動や学校行事をどのように行うか、課題を明確にし、方針を地域に示す必要がある。
		①-2 球技大会のアンケートで満足度を82%以上にする。	・満足度は79%であった。コロナの影響で日数削減・規模縮小・種目の制限の影響が出た。	(所見) C	○SDGs教育の一環としてボランティア活動を取り入れてはどうか。心の発達につながると思われる。
		②-1 学校周辺の清掃ボランティアを年2回以上実施する。	・HRごとの清掃奉仕やJRC部・生徒会を中心に活動が出来た。	A	○新型コロナウイルス感染症が終息に向かわないと計画を立ててもすぐ中止になる状況である。1日も早い終息を願うばかりである。
		②-2 地域のボランティア活動を年6回以上実施する。	・地域との防災訓練等、中止となる行事もあったが、生徒会・JRC部・生活科学部等の部を中心として、多くのボランティア活動に取り組めた。	B	○地域との連携をはかるよう努める。
		③ 学校評価アンケートで「各種学校行事は適切で楽しいものである」に対し、「おおよそ当てはまる」以上が80%以上になる。	・満足度は78%であった。コロナの影響で多くの学校行事が中止・規模縮小となった影響が大きく出た。中止ばかりでなく、出来ることを精一杯出来る環境作りが必要である。	C	
		活動計画	活動計画の実施状況		
①-1 生徒会活動や各種委員会活動を活発にする。	・ほとんどの学校行事が中止規模縮小となり、活動の場を奪われたが、その中でも楽しそうに取り組んでいる生徒に癒やされた。				
①-2 球技大会はアンケートで種目を決定し、生徒が主体的に運営する。	・アンケート等、多くのことで制限を受けたが、生徒会・部活動を中心に主体的に取り組めた。				
② 地域の防災避難訓練、成人式等のボランティア活動を通	・本年も、地域との合同防災避難訓練・成人式ボランティア				

		<p>して社会貢献の意識を高め、奉仕の精神を育成する。</p>	<p>はおこなわなかったが、出来る範囲のボランティア活動をした。</p>			
<p>[6] 心身ともに健康・安全をめざす環境教育・安全教育，食育の推進</p>	<p>①心身の健康管理と正しい食生活等，健康増進の積極的指導を推進する。</p> <p>②環境問題・防災への意識高揚と校内環境美化に努める。</p> <p>③安全教育を徹底して事故防止に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1「ほけんだより」を年間7回以上発行する。年間を通して感染症や食中毒予防に努める。</p> <p>①-2 中・高校連携を密にして保健委員会の充実を図る。がん教育を継続して行い，生徒に理解を深めてもらう。2回実施し，1回は外部講師を招く。</p> <p>①-3 新型コロナウイルス感染症対策の強化を図り，毎日生徒に声かけをし，感染者を出さないようにする。</p> <p>①-4 夏季休業中の健康力アップ作戦を利用して良い食習慣や生活習慣の確立を図る。</p> <p>①-5 外部講師を招いて（食生活が健康増進に大切との内容の）講習会を1回実施する。熱中症予防について球技大会・体育祭を通して啓発活動する。</p> <p>②-1 避難訓練を各学期1回以上実施する。</p> <p>②-2 アンケートで「校内美化活動に積極的に取り組んでいる」の割合が80%以上とする。</p> <p>②-3 電気・水道使用量を昨年度より5%削減させることをめざす。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・現在6回発行，2月に1回発行します。新型コロナウイルス感染症予防活動の徹底により，他の感染症や食中毒の発症事例は無かった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防の為，外部講師を招いての委員会実施は出来なかった。</p> <p>・4月末に本校でクラスターが発症，大事には至らなかったが，良い教訓になり，より一層の対策徹底により，その後は感染者は出ていない。</p> <p>・全生徒が参加，効果的であった。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防の為出来なかった。</p> <p>・1学期に2回，2学期に2回実施した。</p> <p>・生徒・保護者の「おおよそあてはまる」以上の割合が82%であった。</p> <p>・HRや集会などで呼びかけ，日々の電気・水道量の削減に努めた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症予防活動を十分行ったが，水際対策が甘く，クラスターを発症してしまい，反省している。より一層予防活動の徹底を強化していきたい。</p> <p>・良い食習慣や運動習慣が健康力アップに大切であることの意識付けになった。</p> <p>・熱中症になる生徒は少なかった。</p> <p>・南海トラフ地震について勉強し，避難方法を確認できた。先日の大きな地震時にも素早く，的確な行動ができた。</p> <p>・積極的に環境問題に取り組むことができたが，ごみの分別では，不正確な部分があった。</p> <p>・限りある資源ということを意識させ，削減に努めた。</p> <p>・本校生徒は自他の</p>	<p>○心の弱い生徒も多いので，入学してよかったと思えるようにしてほしい。</p> <p>○健康面，勉強面での不安を抱えている生徒は多い。丁寧な対応をお願いしたい。</p> <p>○引き続き学校あげて教育委員会や保健所と情報を共有し，教職員と生徒が新型コロナウイルス感染症予防や対策の徹底が出来るように啓発活動を積極的に行い，出来る限り感染者をださないように努める。</p> <p>○自他の命を守る大切さを新型コロナウイルス感染症を通して意識させて，人権尊重する気持ちを一層高める。</p> <p>○健康力アップ作戦を利用して食育教育の充実を図りたい。</p> <p>○防災意識の高揚に努め，自助・共助の意識を高める。</p> <p>○ゴミの分別を徹底し，環境美化に率先して取り組む。</p> <p>○節電・節水のために確かな行動ができるようにする。</p> <p>○本年度発生した事故は，すべて自転車に関係したものである。自転車事故は，被害者にも加害者にもなり得るとの認識を忘れず指導を継続したい。また，時間に余裕をもって通学するよう訴えていきたい。</p> <p>○地域との連携をはかり，防災リーダーとして活動できる生徒の育成をめざす。</p> <p>○自転車事故は大事故にも</p>	

<p>③ 交通事故防止に努め重大事故発生数は年間0件をめざす。</p>	<p>・自転車および自動車との接触事故が数件発生した。事故内容は、いずれも軽微であった。 ・自己評価で交通マナーを守っていると回答した生徒は98%に達していた。</p>	<p>B</p>
<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	
<p>①-1 「ほけんだより」を発行し、感染症や食中毒への予防意識を高めるなど、健康教育を推進する。</p>	<p>・コロナウイルス感染症予防活動を徹底したが、クラスターを発生してしまいました。が他の感染症や食中毒の発症はなく健康教育の充実に繋がった。</p>	
<p>①-2 保健委員がこまめに手洗いうけ石けんやアルコール消毒液の補充に努める。保健委員会が中心となり富東祭での保健展を充実させる。</p>	<p>・今まで以上に、手洗い・うがい・アルコール消毒の徹底が出来た。</p>	
<p>①-3 新型コロナウイルス感染症の予防の徹底を図り感染者を出さないようにする。</p>	<p>・水際対策の甘さから感染者を出しましたが、良い教訓となりより一層の徹底が出来ようになった。</p>	
<p>①-4 生活習慣病予防についての課題やテーマに統一させて健康力アップ作戦を実施する。</p>	<p>・生徒一人一人が個に応じた高いレベルの作戦を立てて実施が出来た。</p>	
<p>①-5 体育祭や球技大会を利用して、熱中症予防や食事と健康について専門家に講演を依頼する。</p>	<p>・行事の縮小や中止により実施しなかった。</p>	
<p>②-1 地震や津波に対する備えや対策について学び、自助と共助の精神を養う。生徒防災委員長がアピール放送を行い、防災意識を高める訓練を行う。</p>	<p>・各避難訓練において、想定を変えながら実施した。避難にかかった時間を計測し、訓練後教頭が講評を行うことにより、命を守る思いを強くした。</p>	
<p>②-2 毎日の清掃活動を「5分前」に取りかかる姿勢を身につけ、校内の環境美化に取り組む。ゴミ削減のため、モノを大切に使う精神や分別作業を徹底するため啓発活動を積極的に行う。</p>	<p>・環境整備委員より清掃「5分前」の放送を、毎日実施した。また、分別を促すポスター等により校内外の美化に取り組み、ゴミ削減に努めた。</p>	
<p>②-3 電気・水道使用量を広報し、節電・節水を呼びかける。</p>	<p>・HRや集会などで節電・節水を呼びかけ、削減に努めた。</p>	

命を大切にすることが強く、交通ルールやマナーを守ろうとする姿勢がある。

・自他の命を大切にすることがコロナウイルス感染症予防にも繋がり、健康の大切さを実感するよい機会になった。

・災害時に生徒が適切に行動できるような訓練を実施し、防災意識の向上を図った。

・清掃は時間を守り各学年、積極的に取り組むことができた。ごみの分別は、不正確な部分もあった。

・特に夏は電気の使用量が増えたため、常に注意喚起し削減に努めた。

つながる。事故防止のために時間に余裕をもって登校するよう指導することが大切である。

		<p>④ 交通マナー、事故防止について集会やHRで指導を行う。</p>	<p>・学期末には生徒指導課長が全校生徒に対して「命の大切さ」を訴えた。HRでも適宜、担任が注意喚起を行った。各学期1回の街頭通学指導を通して交通マナーに対する意識の向上を図った。</p>			
<p>[7] 家庭・地域社会との連携による「社会に開かれた教育課程」の推進</p>	<p>①年間計画・学校行事等の情報をホームページで発信する等、積極的な情報発信を行う。</p> <p>②家庭・地域社会と連携・協働しながら、生徒の能力を伸長する教育課程の実施に努める。</p> <p>③学校評価や学校評議員制度を活用して、教育方法や学校運営の改善を図る。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	<p>○学校評価アンケートの結果は生徒と保護者に差がある。保護者はもっとやってほしいと思っている。</p> <p>○風通しのよい教員と保護者であり、互いに理解し合える関係の学校であってほしい。</p> <p>○コロナへの対応については保護者も不安であり、互いに意見を出し合っながら新しい方向を示す必要がある。</p>	<p>○ホームページを更新する教員が偏っている現状がある。ホームページは広報活動の最大の機会であるので、校内の更新者が増えるよう呼びかけを強化していきたい。GIGAスクール構想への対応も積極的に進めていく必要がある。</p> <p>○コロナ禍の影響で、対面での説明会ができない場合でも、配信を利用して就職や進学に関する現状や採用試験や入試の情報などを提供する事が可能であった。今後も対面とICTを活用しながら家庭においても保護者と生徒がともに進路について考える機会を増やしていきたい。</p> <p>○今後、地域との合同避難訓練は実施していく必要がある。地域住民と意見交換をしながら避難所運営の方法なども模索していく。</p>
<p>①-1 ホームページのアクセス数が年間15万件以上になるようにする。</p>	<p>・ホームページのアクセス回数は1/31現在で72万件を超えている。</p>	<p>A</p>	<p>(評定) B</p>			
<p>①-2 ホームページの更新回数は、年間300回になるようにする。</p>	<p>・更新回数は1/31現在で117回である。</p>	<p>C</p>	<p>(所見) ・ホームページの更新回数が目標に届いていないのは残念であった。</p>			
<p>②-1 PTA総会の保護者参加率50%以上、文化祭一般公開日の来校者数1,000名をめざす。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染予防対策のため、PTA総会を中止、文化祭は非公開とした。</p>	<p>B</p>	<p>・PTA総会は中止としたが、議案書を配布し、アンケートで御意見をお寄せ頂くなど双方向のコミュニケーションに努めた。</p>			
<p>②-2 各学年の「保護者対象進路説明会」保護者参加率60%以上をめざす。</p>	<p>・コロナ禍の影響で、対面で実施できたのが3年生だけで、参加率は66%であった。1、2年生に関してはライブまたは録画配信を行った。</p>	<p>B</p>	<p>・文化祭は非公開としたため、地域の方との交流はできなかったが、感染者を出さずに実施できた。</p>			
<p>②-3 地域との合同避難訓練を実施する場合は、その参加者数を30名以上にする。</p>	<p>・地域との合同避難訓練は、実施できなかった。</p>	<p>C</p>				
<p>③ 学校評議員委員会を年間1回以上開催し、意見を伺う。</p>	<p>・学校評議員委員会を2月に行う予定である。</p>	<p>A</p>				
<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>					
<p>①-1 適宜、必要な情報発信を行う。生徒や保護者には、定期的にHPを閲覧するよう呼びかける。</p>	<p>・今年度は教科の課題等の配信もあったので閲覧回数が大幅に増えたと思われる。</p>					
<p>①-2 学校行事や部活動実施後に更新する。</p>	<p>・部活動での更新回数が少なかった。更新者が一部の担当者や部活動に偏ったと思われる。</p>					
<p>②-1 PTA役員会やPTA総会で、保護者や地域の方からの</p>	<p>・新型コロナウイルス感染予防のための学校行事の変更</p>					

		<p>要望があれば申し出て欲しい旨をお願いし、時に、適切な教育支援を受けながら、生徒・地域社会・学校が一体となって、適切な教育課程の作成を含む充実した教育活動が実践できるよう努める。</p>	<p>や、家庭での感染予防の取り組みへの御理解、御協力を文書やHPを通じて行った。保護者の方々の御理解、御協力により、安心・安全な教育活動を行うことができた。</p>		
		②-2 進路に関する情報提供を積極的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 必要な進路情報が適切に学校から提供されていると答えた保護者は77%であった。 		
		②-3 自主防災組織との合同訓練を行うことで、地域との連携を図り、共助の精神を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 合同訓練は、実施できなかった。 		
		③ 学校評価アンケート結果を2学期末に実施し、その結果をもとに3学期に学校評議委員会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートを12月に実施した。1月末にその結果を学校評議委員に送付した。密を避けるため、今回の評議委員会は文書会議とした。 		

[8] 伝統を受け継ぐさわやかな校風の樹立	<p>①文武両道を遂行し、礼儀正しく「さわやかで活力あふれる富東」の精神を高める。</p> <p>②部活動を通じて、強固な意志を持ってたくましく生きる精神力と心豊かな人間性を育成する。</p> <p>③地域社会の期待に応えらるとともに清潔な環境の中で、心のふれあう校風を樹立する。</p>	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍での部活動の進め方をよく検討し、方針を地域に示す必要がある。 ○富東に来たい生徒は多い。期待を裏切らないような教育を進めてほしい。 <p>○通学時の挨拶の声が小さいという印象がある。形式的なものではなく、心のこもった挨拶をすることの大切さを様々な場面で全教員が伝えていきたい。「挨拶で心ふれ合う富東」のキャッチフレーズのもと、自分からさわやかな挨拶ができる生徒を育てていきたい。</p> <p>○部活動に対する生徒の前向きな姿勢が結果として表れたと思う。感染症対策をしながら、出来る範囲での活動をさせてあげられる環境を作りたい。</p> <p>○ごみゼロ運動を環境HR活動として位置づけ、次年度も継続して実施する。</p>	
		① 学校評価アンケートで「友だちや先生方にきちんとあいさつができています」について「おおよそ当てはまる」以上を90%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価が当てはまる生徒は、91%と目標を達成した。 	A		(評定) A
		② 部活動に入部していない生徒を5%以下にする。大会が開催されれば四国大会以上の大会への出場部数を10部以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 4月のクラスター発生後、再度部活動登録を行った際、部活離れが心配されたが、兼部する生徒もいて入部率は100%を超えた。全国・四国大会も中止する大会があるなか、全国大会に9部、四国大会に12部が出場した。 	A		(所見) <ul style="list-style-type: none"> 校内では挨拶ができる生徒が多く活力が感じられる。一方、挨拶ができない生徒も一部見受けられる。 出来ないことが多いなか、限られた時間を有効活用出来た部活動が結果に結びつ蹴ることが出来たように思う。
③ 学校周辺や避難経路の清掃を各クラスで年2回以上実施する。	<ul style="list-style-type: none"> HR活動でごみゼロ運動の日を設定し、学校周辺の校外清掃活動に取り組んだ。またグラウンドの除草作業等も部活動の生徒が率先して行ってくれた。 	B				

[9] 教職員の資質向		評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ○オンライン授業(双方向) ○電子黒板の活用は進
----------------	--	------	------------	------	---

①教職員が自発的・積極的に校内外の研修に参加し、自己研鑽に励むことによって、生徒が意欲的に取り組む授業を創造するとともに、授業と家庭学習、定期考査と課題テスト等を効果的に関連させることによって、確かな学力を育成する。

①-1 相互授業参観を年2回以上、研究授業及び授業研究会を年1回以上実施する。	・相互参観授業は1, 2学期に各1回実施した。全体的な研究授業及び授業研究会は実施できなかったが、フレッシュ研修・GIGAスクール等個別の研究授業の授業参観は多くの教員が行った。	(評定) B
①-2 教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」、「授業に様々な工夫をしている」に対して「おおよそ当てはまる」と答えた生徒がそれぞれ80%以上とする。	・教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」について、おおよそ当てはまる以上とした生徒が86%、「授業に様々な工夫をしている」が80%であった。	(所見) A ・電子黒板活用は進んでおり、使用するのが普通の状況になりつつある。生徒用タブレットの活用は一部の教科以外まだまだこれからの状況である。全体的な職員研修会はあまりできなかった。
①-3 外部講師による職員研修会を年間3回以上実施する。	・外部講師による職員研修会は年間1回(情報セキュリティ)であった。	B
①-4 校外における研修(指導力向上研修等)にのべ50名以上参加する。	・コロナ禍の影響により校外研修に参加することができなかった。	C

活動計画	活動計画の実施状況
①-1 授業研究や相互参観授業を効果的に実施し、授業力向上に活かす。	・全体的な中高相互の研究授業や授業研究会はできなかった。フレッシュ研修等個別の研究授業参観はタブレットの使用法他授業力向上につながったと思われる。
①-2 教材研究にあてる時間を確保し、アクティブラーニングやICTの活用を積極的に取り入れる。	・授業を進めることに重点が置かれた。実験・実習・演奏・話し合い活動が制限されたため、「主体的・対話的で深い学び」まで十分にできなかった。英語科や数学科でGIGAスクール構想推進に対応してタブレットの使用が進んだ。
①-3 教育相談、学力向上、GIGAスクール等に関する研修会を実施する。	・校内での全教員対象の教育相談、学力向上、GIGAスクール等研修会は実施できなかった。
①-4 校外研修やオンライン研修等を教職員に広報し、研修を勧める。	・オンライン研修の機会は広報し、研修を勧めた。必須のもの以外についての参加は多くなかったと思われる。

の方法について研究を進めてほしい。

んだが、普段の授業での生徒用タブレットの活用は一部教科にどまっている。授業の進めどきの兼ね合いもあるが、デジタル教科書等活用できるソフトの充実も必要であると思われる。対面での話し合いや実験・実習・合唱等の制限で「主体的・対話的で深い学び」への対応は十分にできなかった。相変わらずのコロナの影響を考える校とオンラインによる校内研修の機会を増やしていきたい。また、オンラインによる校外研修も奨励していきたい。